

「フランスの精神分析」(『精神分析・精神病理の臨床研究』第三期)

日本で主流となっている精神分析は、クライン、ビオン、ウィニコットを始めとする英米圏の精神分析である。しかし、世界の趨勢を俯瞰的に眺めると、英米圏のそれとは異なったフランス独自の文化的土壌から生まれた精神分析があり、とりわけロマンス語圏の国において圧倒的な影響力を持っている。

フランスの精神分析と言えば、ラカンの名前と結びつけられて語られることが多いが、それはあくまで、その潮流の一つでしかない。その中でもアンドレ・グリーンは、ウィニコット、ビオン、ラカンを批判的に継承し、現代の精神分析理論の更新を図ったが、その困難な試みは、彼の没後は展開も継承もされないまま、忘れ去られつつある。

本セミナーでは、アンドレ・グリーンおよびウィニコットに影響を受けたフランス語圏の分析家たちの仕事を中心に、フランス精神分析の全体像を把握することを試みる。そのさい彼らの臨床的思考をより深く理解するために、グリーンの理論的基盤であり、「敵」でもあったラカン派の臨床の現代的な動向(例えば「ラカン派の事例集」である『言葉にとらわれた身体』(誠信書房)など)も随時参照する。

日 程：2024年5月～2025年3月(7月、11月は休み)全9回

第二日曜日(原則)、午後1時30分から4時まで

ファシリテーター：十川幸司

形 式：担当者が指定された論文のレジюмеを発表し、全員で討論する。

テキスト：その都度、文献を指定し、配布する。

(フランス語が全く読めなくても参加できるように、英訳、邦訳のある文献を取り上げます。ご気楽にご応募下さい)。

参考文献：英語で読めるものとしては、Reading French Psychoanalysis (Routledge,2010)が全体像を理解するのに役立ちます。

定 員：10名

資 格：臨床に携わり、毎回指定された文献を精読したうえ、参加できる人。

場 所：小寺財団第二セミナールーム

参加費：35000円(参加者が決定次第、振り込み情報をお伝えします)

申し込み締め切り：2024年4月30日(火)

主催：小寺記念精神分析研究財団

フランスの精神分析 参加申込書

- ◆ 参加申込書は、Eメール、FAXまたは郵便にてお送りください。
- ◆ Eメールの場合は、件名「フランスの精神分析」として、記入済みの申込書データを添付していただくか、下記の項目を本文にすべて記入しお送りください。

Eメール：kodera.kt@nifty.com FAX：03-3350-9749

郵送：〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-4 SCビル6階 小寺記念精神分析研究財団事務局

※記載いただいた個人情報、小寺財団の主催するセミナーのご連絡・ご案内のみに使用いたします。

申込締切 4月30日(火)必着

申込日 月 日

1. 氏名、生年	フリガナ 氏名	西暦 年生まれ
2. 主な勤務先 あるいは所属		
3. 職種、経験年数	職種	経験 年
4. 保有資格	(あてはまるものに○) なし・臨床心理士・公認心理師・医師・その他 ()	
5. 連絡先	住所 〒	電話番号
	Eメールアドレス	
6. 認知媒体	本セミナーをどのようにして知りましたか？(あてはまるものに○) ホームページ・メール・SNS・知人の紹介・その他 ()	
7. 本セミナーへの 参加動機		

8. 基本知識	<p>フランス語力は（あてはまるものに○）</p> <p>ある程度ある ・ 初心者レベル ・ 全く読めない</p>
9. その他	<p>（あればご自由にお書きください）</p>

参加費：35,000 円

- ◆ 参加者のメンバー構成および採否に関しましては、当方にご一任いただきます。締め切り後、決定次第、メールにてご連絡いたします。参加費振込先はその際にご案内し、お振込を確認後、名簿にお名前を記載いたします。